

指導のポイント

- 道徳の時間においては、学校にあるさまざまな視聴覚機器を効果的に利用することで、生徒の興味関心を高め、感性に強く訴えることができるものとなります。
- 利用する場合は、それぞれの資料の特質を生かすことが大切です。視聴して感想を書いて授業が終わるということにならないよう、活用について留意しましょう。

具体的事例

<導入>

- ☆ 本時の主題に興味や関心を持たせたり、学習の動機付けを図る段階
- ◎ 導入で視覚、聴覚に直接訴え、本時の主題に関わる問題意識を持たせます。



<DVD・ビデオ>
資料に関する映像

<CD>
資料に関する音声データ

<プレゼンテーションソフト>
事前アンケートの結果、条件・状況、資料に関する画像等の提示

<展開>

- ☆ 主題のねらいを達成するための中心となる段階
- ◎ 視聴覚コンテンツは生徒の主体的な考えを引き出すきっかけとなります。



<DVD・ビデオ>
本時の主題となる映像コンテンツ
(例) 読み物資料の映像化されたもの など

<CD>
読み聞かせ
※ 読み物教材が録音されたものを使うと、CDが流れている間に生徒の様子等を確認することができます。
BGM
※ 教材に関連するBGMでイメージや考えをふくらませます。

- ◎ 静止画や発問内容を提示することで、生徒に具体的なイメージを与えます。

<プレゼンテーションソフト>

発問内容の提示

場面絵や教材の内容に沿った写真の提示

<終末>

- ☆ 自分の思いや考えをまとめたりして、今後の発展につなげる段階

- ◎ 本時で考えを深めてきたことに関して余韻や充実感を与え、自分にとって身近なことであると気付くきっかけになります。

<DVD・ビデオ・CD>

説話やことわざ、格言について語られたコンテンツ



<プレゼンテーションソフト>

授業に関係する写真等の画像、新聞記事、格言、詩、「私たちの道徳」のコラム等



導入で、資料に関する映像を提示する。

登場人物、条件・状況等を確認する。



留意点

- 著作物については「著作権」がありますので配慮が必要です。映像コンテンツや画像を使用する場合、権利者に確認することをお奨めします。
- クラスや学校の実態、教材観に応じて教材の取り扱いが変わります。その教材でねらいを達成するために、どのような方法が適切か見極めて授業を組み立てましょう。